

[証券コード:2176]



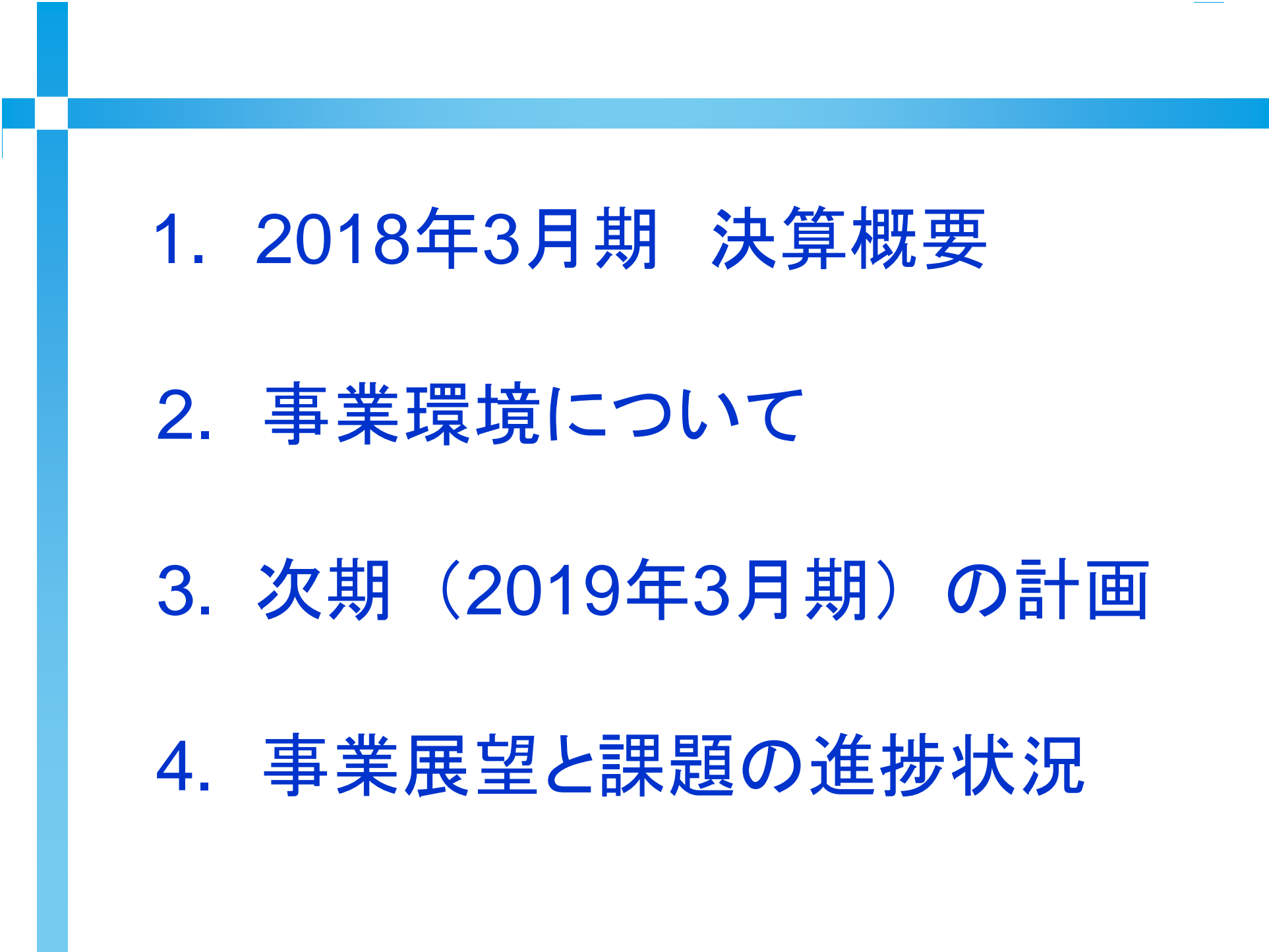
# 2018年3月期 決算説明会

---

2018年5月30日（水）

代表取締役社長 中川 賢司



- 
1. 2018年3月期 決算概要
  2. 事業環境について
  3. 次期（2019年3月期）の計画
  4. 事業展望と課題の進捗状況



# 1. 2018年3月期 決算概要

## 2018年3月期 連結業績(前期との比較)

Ina Research Inc.

(単位：百万円)

	前期	2018年3月期	対前期	
	2016年4月-2017年3月	2017年4月-2018年3月	金額	前年同期比
売上高	2,295	2,425	+129	+5.7%
売上総利益	582	710	+127	+22.0%
販売管理費	526	514	△11	△2.3%
営業利益	56	196	+139	248.3%
経常利益	23	156	+132	563.0%
当期純利益	31	141	+109	344.6%

# 期初予想との対比

(単位：百万円)

	2017/5/12 発表 期初予想	2018年3月期	対予想	
	2017年4月-2018年3月	2017年4月-2018年3月	増減額	増減率
売上高	2,300	2,425	+125	+5.5%
営業利益	79	196	+116	+147.4%
経常利益	10	156	+146	+1,461.1%
当期純利益	6	141	+135	+2,045.0%

## セグメント別 連結業績(前期との比較)

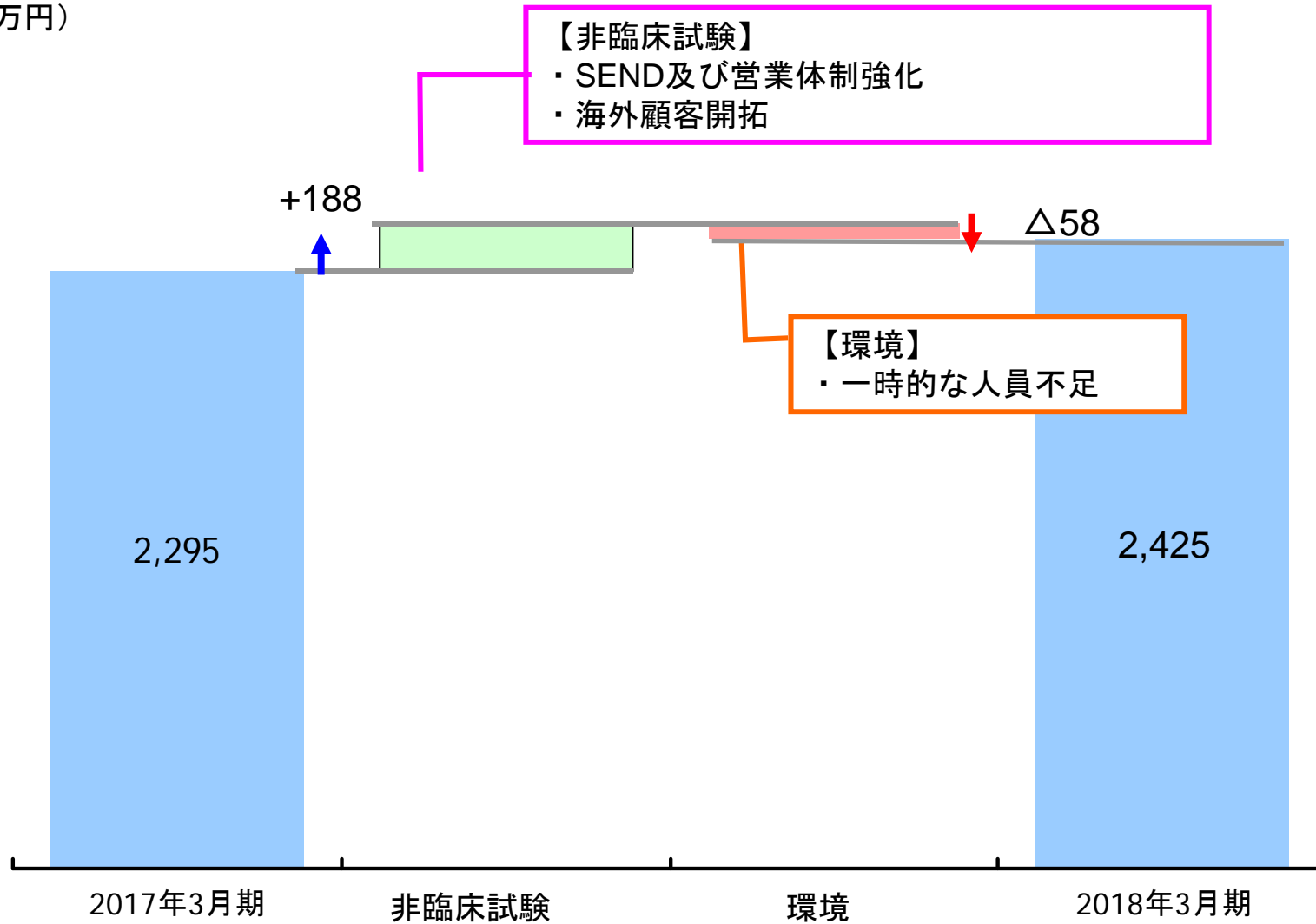
Ina Research Inc.

(単位：百万円)

		前期	2018年3月期	対前期	
		2016年4月-2017年3月	2017年4月-2018年3月	金額	前年同期比
非臨床試験	売上高	1,986	2,174	+188	+9.5%
	営業利益	19	185	+166	+867.2%
環境	売上高	309	250	△58	△18.9%
	営業利益	37	10	△26	△71.5%

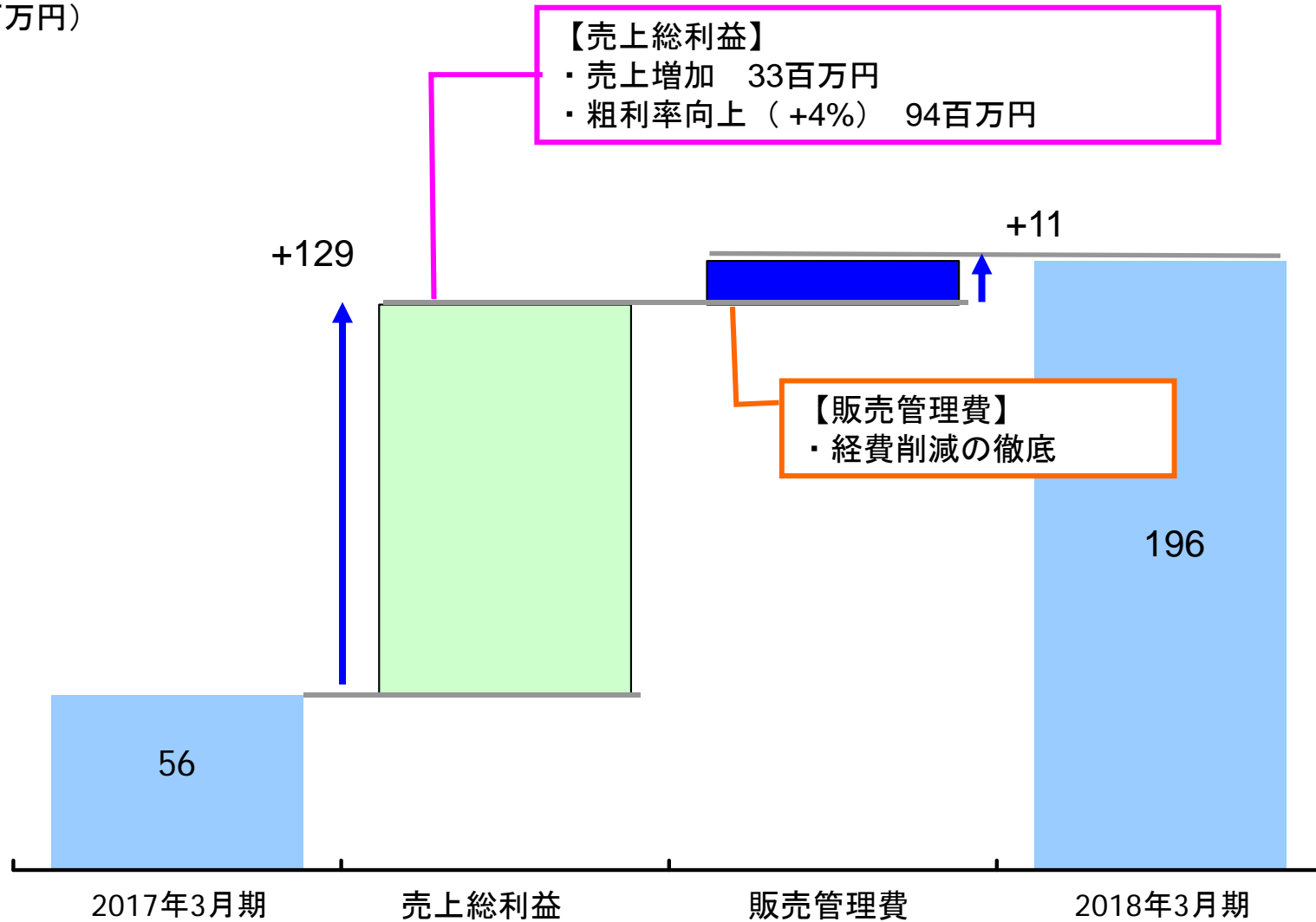
# 売上高増減内訳

(単位: 百万円)



# 営業利益増減内訳

(単位: 百万円)





## その他指標・配当

(単位：百万円)

### キャッシュ・フロー

	2017年3月期	2018年3月期	対前期
営業活動によるキャッシュフロー	△1	644	+646
投資活動によるキャッシュフロー	6	21	+15
財務活動によるキャッシュフロー	87	13	△74

### 自己資本比率

	2016年3月期	2017年3月期	2018年3月期
自己資本比率 (%) (自己資本／総資産)	19.8	19.4	20.6

### 配当

2018年3月期・2019年3月期につきましては、利益剰余金のマイナスが解消しない見込みであることから、誠に恐縮ながら無配とさせていただきます。



## 2. 事業環境について

# 医薬品業界（1）

## 医薬品業界の現状

- ◆国内製薬会社は、継続的な薬価改訂等が影響し、総じて低成長となっている
- ◆研究開発への経営資源の集中化が進んでいる
- ◆製薬会社の海外進出が活発化している
- ◆2018年3月期において研究開発費は総じて増加し、目下は開発費を絞る動きは見られない
- ◆がん治療及び中枢神経関連の開発が特に盛んに行われている

## 医薬品業界（2）

### 再生医療

- ◆アカデミアを中心に医療への応用の動きは地道に広がっている
- ◆難治性疾患や免疫反応の少ない組織から実用化されていく方向は継続
- ◆各企業は独自のコンセプトで再生医療等製品の開発を進めている
- ◆試験需要は徐々に高まっている

### 海外の新薬開発の動向

- ◆欧米では医薬品販売市場は拡大の一方で薬価引き下げに対する動きは継続  
バイオベンチャーを中心に医薬品開発は依然として活発
- ◆韓国は国が予算を投じて医薬品開発を支援しており、開発は年々活発化している
- ◆中国は国内創出の新薬は依然少ないが、国が新薬開発への支援を打ち出す等、今後の発展が見込まれる

## 医薬品業界（3）

### 非臨床CROの動向

- ◆業界団体調査より、近年の非臨床市場は緩やかに回復しているものと認識

### 今後の動向予測

- ◆日本の新薬開発メーカーの新薬開発に力を入れる流れは継続
- ◆製薬企業は薬の形態に囚われない様々な治療法に開発や事業を伸ばしていく
- ◆日本政府によるアカデミアの研究に対する投資は、真に革新的かどうかの厳しい見極めのもと集中的に継続。
- ◆再生医療（ことiPS関連）は他家細胞＝拒絶反応の課題をクリアする事が先決  
MHC（HLA）遺伝子の研究は重要性を増すものと見られる
- ◆韓国及び中国は継続的な医薬品開発への国の予算投下や支援が期待される



### 3. 次期（2019年3月期）の計画

# 2019年3月期 業績予想

Ina Research Inc.

(単位：百万円)

	2018年3月期	2019年3月期	対2018年3月期	
	実績	予想	金額	対前期 増減率
売上高	2,425	2,778	+353	+14.5%
営業利益	196	117	△79	△40.4
経常利益	156	78	△78	△49.5
当期純利益	141	66	△75	△53.4

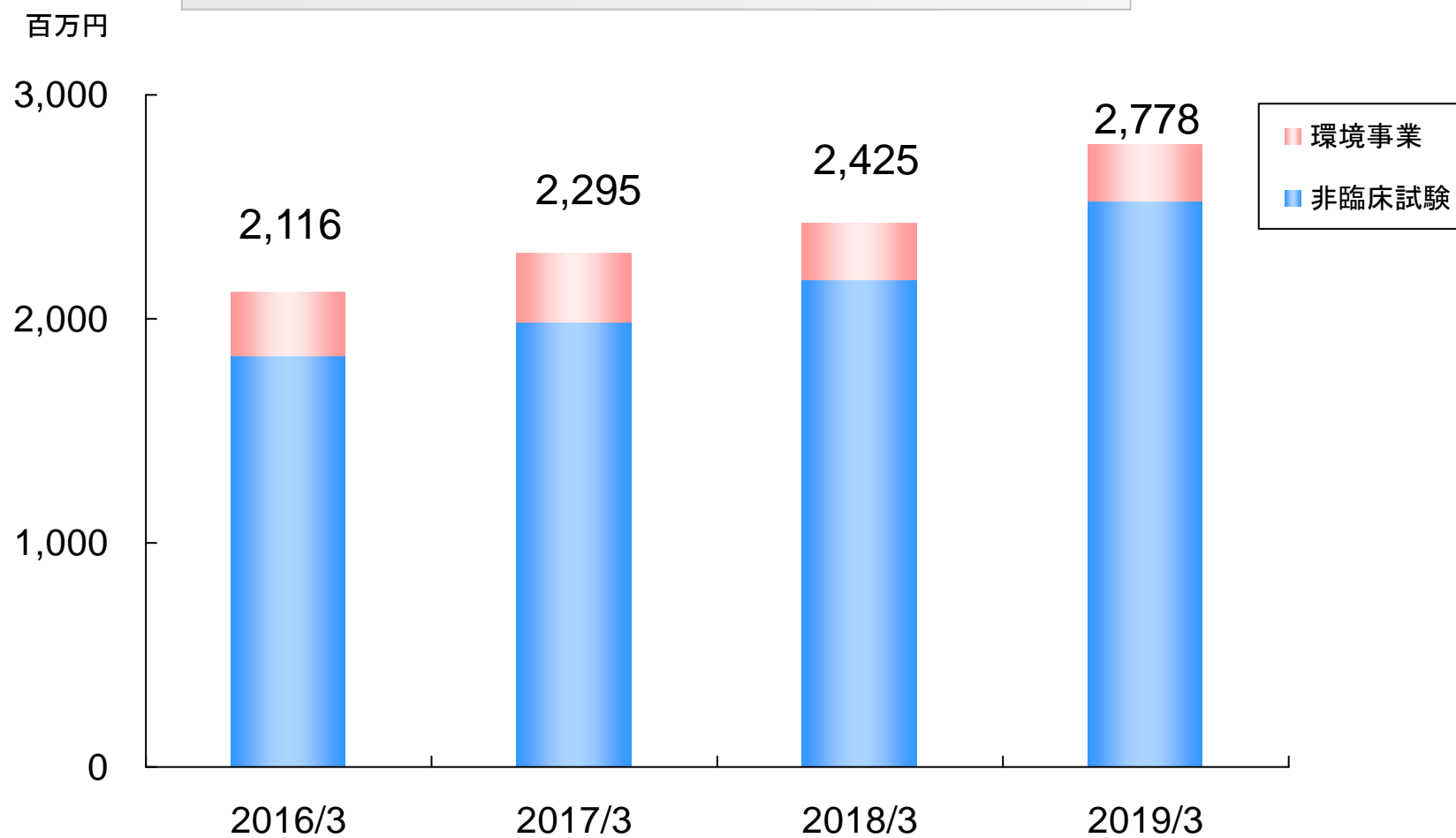


## 4. 事業展望と課題の進捗状況



# 売上推移

売上目標：27.78億円（2019年3月期）



# 非臨床試験事業の展望

## 海外展開

- ◆海外の営業代理会社との関係強化や営業活動活発化、現地有力研究機関との共同事業推進などにより受注増加を図る

## SEND対応を武器とした製薬会社からの受託増加

- ◆他社との差別化を進め、活発なプロモーション活動を行い、着実に契約数を増やす。

## バイオ医薬品試験の拡大

- ◆提携先企業との共同で立ち上げた新評価方法をPRし、バイオ医薬品の受託を広げる。

## 特化技術の増加

- ◆革新的医療技術に関する共同研究を進め、特化技術を増やす

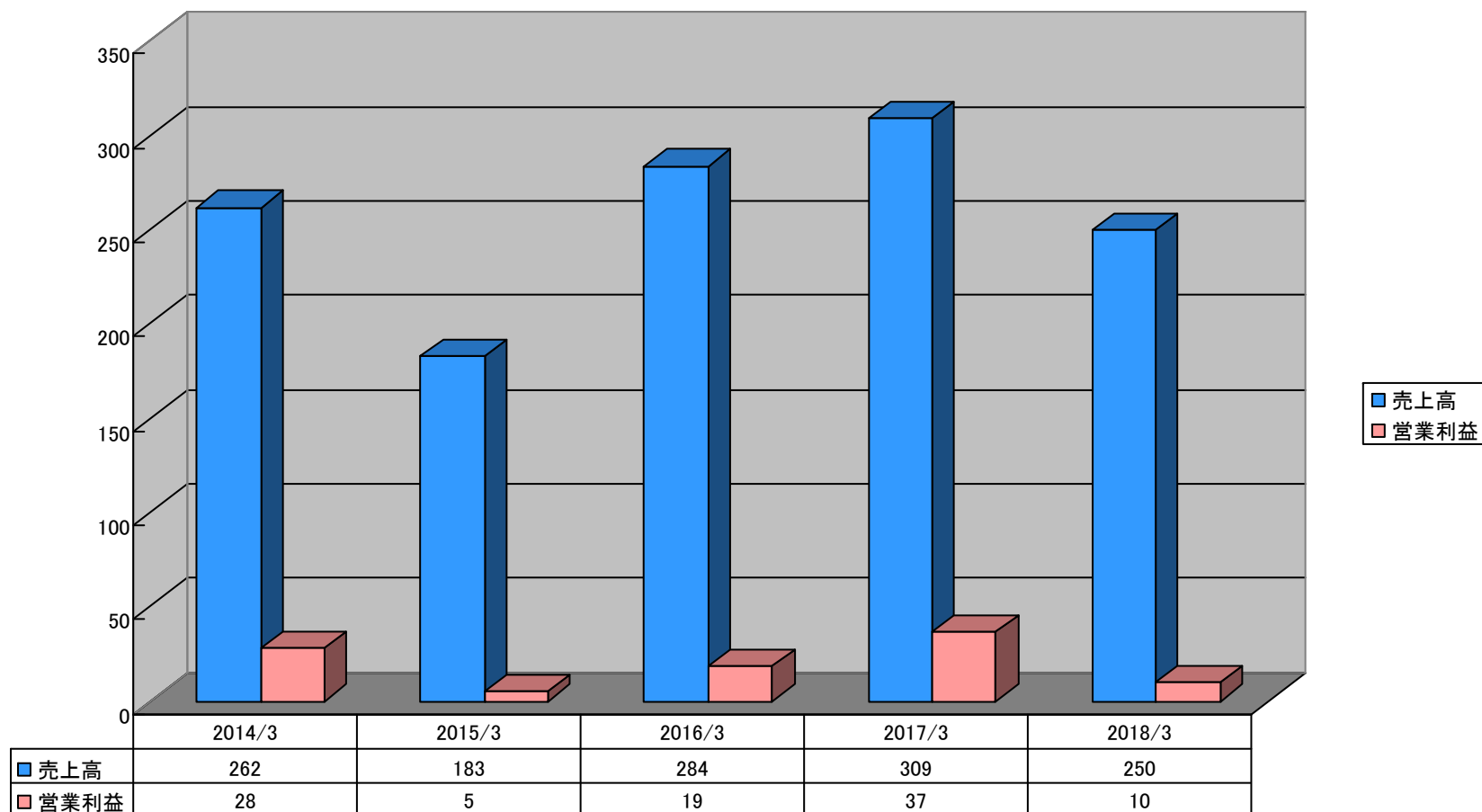
# 研究開発

1. MHC遺伝子を含む遺伝子統御動物の研究継続（東海大、滋賀医科大学との共同）
2. 免疫分野の研究強化
3. 信州大学コンソーシアムでの再生医療の受託研究（iPS細胞、細胞治療等、取り組み中）
4. 信州大学等とのiPS細胞を用いた心不全治療の受託研究
5. 抗がん剤及び、がん療法関連試験の拡充

# 環境事業の推移

## 業績推移

百万円



# 環境事業の展望

- ◆研究機関の増改築は依然問い合わせが多い状況
  - ◆前期の人員減少に伴い6月に専門人材を採用
  - ◆有力代理店との関係を強化し受注を増やす
- ⇒ 目下は組織体制再構築に注力する

# 国立研究開発法人日本医療研究開発機構 (AMED)事業の成果について

「MHC統御カニクイザルの有用性検証と計画生産」 (平成29年11月終了)  
イナリサーチ、東海大学、滋賀医科大学、慶應義塾大学共同

得られた結果 (昨年度まで: AMED開示済)

- ◆MHC遺伝子検査法の改良、その他免疫反応に関わる遺伝子群特定と検査法確立
- ◆カニクイザルの子宮移植において、MHC半一致の場合に拒絶反応が生じにくいことを確認
- ◆カニクイザルの皮膚移植の実験法を確立
- ◆自然繁殖コロニーにて一定数の産児
- ◆カニクイザルの人工授精法を確立

※本結果は平成29年5月31日にAMEDホームページにて公開済の情報です  
最終結果についてはAMEDのホームページにて近日開示の予定です

# ご清聴ありがとうございました

## IR連絡先

本資料に関するお問い合わせ

株式会社イナリサーチ  
総務部 IR担当

TEL : 0265-72-6616

医薬品開発のベストパートナー

 **Ina Research Inc.**

<http://www.ina-research.co.jp/>

本資料は、株式会社イナリサーチの事業及び業界動向に加えて、株式会社イナリサーチによる現在の予定、推定、見込み又は予想に基づいた将来の展望についても言及しています。これらの将来の展望に関する表明はさまざまなリスクや不確かさがつきまとっています。既に知られたもしくははまだ知られていないリスク、不確かさ、その他の要因が、将来の展望に対する表明に含まれる事柄と異なる結果を引き起こさないとも限りません。株式会社イナリサーチは将来の展望に対する表明、予想が正しいと約束することはできず、結果は将来の展望と著しく異なるか、さらに悪いこともありえます。本資料における将来の展望に関する表明は、2018年5月30日現在において利用可能な情報に基づいて、株式会社イナリサーチにより2018年5月30日現在においてなされたものであり、将来の出来事や状況を反映して将来の展望に関するいかなる表明の記載をも更新し、変更するものではありません。